

あの第二次世界大戦後のシベリアのラーゲルのきびしい条件の下で、木彫家の手でつくられた白樺の「木床義歯」の話である。

これはそれにかかわった歯科医師の中村喜一、高木一郎の両氏は現に活躍中の方であるし、その作成に直接に当られた木彫家の山本雅彦氏も九十歳を越えているが健在である。

これは著者の仮説の「木床義歯のルーツは仏師の木彫技術である」というものの実証的なエピソードとして結びにふさわしいものであると思う。

関心をもつ方の一読をおすすめする次第である。

(榊原悠紀田郎)

〔デントアルフォーラム社・東京都千代田区神田多町二―四傘長ビル、電話〇三―三三五六―五八八六、平成六年四月、B5判・一八六頁、二二、〇〇〇円〕

エドワード・クック著、中村妙子・友枝久美子訳

『ナイチンゲール「その生涯と思想」I』

フロレンス・ナイチンゲールは、一八二〇〜一九一〇年の九〇年間、最盛期の大英帝国、ヴィクトリア女王時代を生きた傑出した女性である。

原著はナイチンゲールの没後間もない一九一三年に出版され、たちまちベストセラーになったが翻訳は八〇年ぶりである。二〇数年前に私は原著を手に入れ、看護関係の出版社に

翻訳を依頼したのであるが実現せず今日に至った。

ナイチンゲール研究の基ともなるこの伝記の入手が困難なことは研究をはばむものでもあり、また多忙のなかを原著を読むのも仲々苦労がある。ナイチンゲール研究の盛り上がりつつある昨今翻訳され、尚名訳で出版されたことは時宜を得ていて真に嬉しく、時空出版や関係者の方々に心からの御礼を申し上げたい。

本書は、ナイチンゲール自身が残した膨大な資料を中心に、彼女を直接知っている人々や、親交のあった人々からの資料、情報提供を裏づけ資料で確認しつつ実像に迫った伝記である。

原著は全三巻であるが、翻訳は全三巻である。

第一巻は二部にわかれ、第一部 志(一八二〇〜五四)、第二部 クリミア戦争(一八五四〜五六)で構成されている。

第一部 志(全十章)では、ナイチンゲールが属した上流階級のありよう。豊かな感受性と、すぐれた才能をもつ生き生きとした少女が、その階級のなかで恵まれた人的交流、さまざまな体験、上流階級の社会的責任を自覚しつつ、自己の使命は何かと模索しつつ女性へと成長してゆく過程が克明に描かれている。

宗教的思想については私は知識も乏しく、共感も充分とはいえないが理解はできる。

自己に課せられた召命が、看護への道であると悟ったとき、その当時の看護婦をみれば必然的に家族に逆うことになり、

家族との葛藤に深刻に悩むことになるのであるが、キリストの召命ゆえに最後まで自己の意志を堅持できたのではない。第三章・精神生活から第七章 独身生活は、特にナイチンゲールの内面の苦悩と、強い自己実現への希求が手にとるように伺われ、息をのみつつ読んだ。

第二部 クリミア戦争(全十三章)では、自己の意志と陸相との要請が相まって、クリミアに赴任したナイチンゲールの活躍ぶりが生々しく描かれている。世間ではクリミアの天使とかランプを持つ貴婦人として、戦争の悲惨さを美化するかの如く、人々に奉仕と慰さめを与えた看護婦ナイチンゲールに強いライトが当てられ、優しさと忍従、自己犠牲の精神がうたわれた。それも一つの側面ではあろうがすべてではない。実は軍隊という強大な男性社会の中に入って、女性パイオニアとしての数々の辛苦である。男性顔負けの偉大な政治家であると同時に、女性ならではの管理の諸様相が手にとるように伺える。活用できるものはすべてを活用するどん欲さ、その頭脳の明せきさ(ヴィクトリア女王に舌を巻かせた)、如何なる場面でも失わなかった冷静さ(レディとしての態度) 兵士達への援助の諸活動、配下の看護婦達の宗教的対立の調整等々、ナイチンゲール自身の病に至るまでの超人的活躍ぶりが膨大な資料を駆使して描かれており読む者の感動をさそう。四〇〇頁余のものであるが内容はずしりと重く、ナイチンゲールが目の前において動いているような緊迫感におそわれた。

時間をかける読書の楽しみをたっぷり味わった。

著者のエドワード・クック(一八五七―一九一九)は英国のジャーナリストで一八九五―一九〇一年までデイル・ニューズの主筆であった。

ナイチンゲールが没した時、クックは五三歳という人間としても円熟期にあり、職業上からも身近にナイチンゲールを覚えていたのではないか。それが名著を生む原動力の一つとも考えられる。丹念に資料にあたり、その裏づけの正確さは他に類を見ないものである。装幀も書物の内容と見事にマッチしている。

イングリッシュ・グリーン地の布地に金箔の文字、見返しの模様もイングリッシュ・ローズ、一〇〇%、ヴィクトリア時代のイギリスを感じる。

このイングリッシュ・ローズのポプリはナイチンゲールの愛用したものである。心にくい装幀ではある。読書の楽しみが倍加される。

多くの人々に読みつがれ、愛蔵して欲しい書物であり、つづく二・三巻も楽しみである。

(山根 信子)

〔時空出版・東京都文京区小石川四六一三、電話〇三―三八二
二一五三三、一九九三年二月二〇日刊、A5判、四〇〇
頁、定価三、三〇〇円〕